

緑化だより

No.223

令和 8年 1・2月合併号



やまぼうし橋雪景色

- 季節の花(竹(たけ))
- 水生昆虫の話 (ミジンコ)
- 小さな世界こけ(ヒシャクゴケの仲間)
- 緑化研修会
- お知らせ・ご案内
- 展示会

ひろしま
環境の森

広島県緑化センター

〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843 URL <https://ryokka-c.jp>



広島県
緑化センター
二次元コード

季節の花

竹(たけ)

「御苑生(みそのふ)の竹(たけ)の林に鶯(うぐひす)は
しば鳴きにしを 雪(ゆき)は降りつつ」

大伴家持

萬葉集 卷19-4286

これを訳しますと

御所の庭に生えている竹の林で 先ほどまでは ウグイスがしきりに鳴いていたといふのに
雪は依然として降り続いている。

天平勝宝5年(753年 奈良時代)、庭に大雪が積もった1月11日、家持の邸宅で宴会が
催されたときに詠われたものです。

タケの仲間はイネ科タケ亜科に属する常緑性の多年生植物です。
樹木のように見えますが草本です。タケには節があり、中は空洞です。

繁殖力が強く、地下茎から出た芽は1年に5~8mも伸び、半年で
若竹に成長します。

タケとササの違いは、タケノコが成長して、茶色の皮が自然に剥がれる
のがタケで、モウソウチク、マダケ、ハチク、オカメザサなどがあります。

皮がいつも残っているのがササです。ヤダケ、スズタケ、クマザサ
などがあります。

タケと名がついてもササがあり、ササと名がついてもタケがあり、混乱
しそうです。

日本では竹には神が宿ると信じられ、長寿と繁栄の象徴として神聖
な神事や祭事に使用されています。

又、生活とも深い関わりがあり、竹垣や物干し竿としての材、竹笛、
尺八、竹馬、花瓶、竹籠等の加工品として利用されるほか、筍や葉や桿を
煎じて、薬用と用いられた記録が日本書紀(720年)や古事記(712年)にあります。

孟宗竹の筍もうそうちく たけのこは、江戸中期に中国から沖縄を経由して日本全国に広りました。(上村)



モウソウチク竹林

水生昆虫の話

ミジンコ

年が明け、寒い日が続いている。気温が下がると我が家のメダカ鉢にも氷が張りますが、
その氷の下でメダカ達はゆっくりと泳いでいます。そんなメダカたちの大好物でもある「ミジンコ」
って、冬はどう過ごしているのか気になったので調べてみました。

ミジンコは、体長が0.2~4mmととても小さく、水中を泳ぎ回って生活する動物プランクトンの一
種で、節足動物門 甲殻類に属しており、ミジンコ科、タマミジンコ科、ゾウミジンコ科、ケブカミジ
ンコ科、マルミジンコ科と、実はいろんな種類がいるようです。

ミジンコは、環境が良いときはメスだけでメスの子供を産む「単為生殖」で増えますが、寒くなり
餌不足や水温低下など環境が悪化するとオスを産んで、オスとメスで交尾をする有性生殖に切
り替わります。そして卵を産むと姿を消し、水の中や土の中で成長を止めた休眠状態の耐久卵
(乾燥卵)でじっと耐え、再び良い環境が訪れると孵化して活発に活動し始めます。

ただし、オオミジンコ(野生では生息していないらしい)については、寒さに強く、冬でも生き残
って氷の下でも繁殖できるほど丈夫なので、氷の下のメダカたちの貴重なご馳走になっている

ようです。

そんなミジンコ達は、水系環境の中では食物連鎖のちょうど中間ぐらいに当たり、主に藻類を食べて生活しています。増えたミジンコは小魚や水生昆虫の餌になり、生態系を支えているとても重要な生き物なのです。

とはいって、食べられてばかりのやられっぱなしではなく、なんと！捕食者から身を守るために、ピンチになると頭をとんがらせる、という必殺技があるんです。

が、それは比較的小さな捕食者に向けての必殺技であり、流石に魚には通じないようです。どんなツノが出てくるのか見てみたいですね。

ちなみに、上の写真は顕微鏡モードで撮影した写真なのですが、ミジンコって黒い目が一つしかないんです(実は複眼がもう一つあるようですが)。初めて見た時にはとても驚きました。そして、よく見ると体のなかに小さな赤ちゃんミジンコがたくさんいるのが見えるでしょうか。単為生殖で体の中で卵が孵化して生まれるのを待ち侘びているおチビちゃん達がたくさん詰まっています。

簡単に増やす事ができるので、興味のある方はぜひチャレンジを！(西村)

小さな世界 こけ

ヒシャクゴケの仲間

タイ類のヒシャクゴケ科は、広島県にはヒシャクゴケ属とシロコオイゴケ属の2属があります。

タイ類にはゼニゴケ類のような葉状体とヒシャクゴケ科のような茎と葉が明瞭な茎葉体のグループがあります。

一般に茎葉体のタイ類では、折れ曲がった葉の上面が大きく、下面が小さいのですが、ヒシャクゴケ科では上面が小さいのが特徴です。

今回はヒシャクゴケ属のうち、緑化センターでも見ることのできる2種類を紹介しましょう。

チャボヒシャクゴケは雌雄異株。湿った岩上に生育します。茎の長さは1~2cmで、茎の先についた葉は赤味を帶びています。

下側の葉(腹片)は橢円形で長さ0.5~1.5mm、鋭頭~鈍頭で葉の縁にはゆるい鋸歯があります。上側の葉(背片)は腹片の3/5~3/4の長さで卵形~矩形をしています。

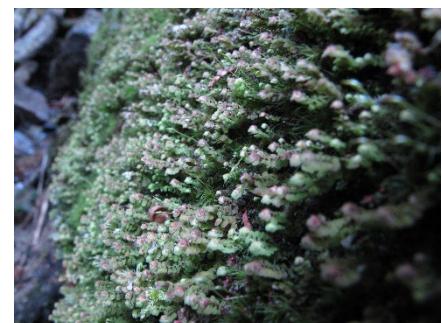
現在は、シタバヒシャクゴケの異名として扱われています。

ウニバヒシャクゴケは雌雄同株。湿った岩上や倒木上に生育し、黄緑色でやや斜めに伸びています。茎の長さは1~4cm、幅4mm前後です。背片は腹片の1/5の長さで、弓形にくぼみます。縁には毛の様な歯が密生し、基部は垂れ下がります。

小さくてわかりにくいくもしれませんが、どちらも東山作業道沿いの、水がしたたり落ちる岩壁に生育していますので、じっくり観察してみてください。(山根)



ミジンコ



チャボヒシャクゴケ



チャボヒシャクゴケの葉



ウニバヒシャクゴケの葉

緑化研修会

- 1月 7日(水) 『春の七草を学ぼう』
※自由参加、無料
- 1月 24日(土) 『なめこ植菌教室』
～家庭栽培に挑戦しよう～
※抽選(H.P12/24～1/10)、原木 20本、材料費 800円
- 2月 19日(木) 『シャンボ椎茸植菌教室No.1』
～家庭栽培に挑戦しよう～
※抽選20名(H.P1/19～2/5)、一人1本、材料費 800円
No.1、No.2 の両方に参加することはできません
- 2月22日(日) 『シャンボ椎茸植菌教室No.2』
～家庭栽培に挑戦しよう～
※抽選20名(H.P1/22～2/8)、一人1本、材料費800円
No.1、No.2の両方に参加することはできません
- 3月 6日(金) 『早春のコケ観察会』
室内で基本を学んだあと、屋外で観察します。
※自由参加、無料 ルーペ持参
- 3月 7日(土) 『早春のバードウォッチング』
散策しながら野鳥を観察します
※自由参加、無料、双眼鏡持参、雨天中止

10:00～12:00 学習室 集合
講師：緑花文化士
横山 直江

10:00～12:00 学習室 集合
講師：日本きのこセンター
三次支所長 影井 和男

10:00～12:00 学習室 集合
講師：日本きのこセンター
三次支所長 影井 和男

10:00～12:00 学習室 集合
講師：日本きのこセンター
三次支所長 影井 和男

10:00～12:00 学習室 集合
講師：広島大学名誉教授
山口 富美夫

10:00～12:00 管理事務所前 集合
講師：日本鳥類保護連盟
三次地方分会事務局長
衛藤 慎也

♪☆お知らせ・ご案内☆♪

学習展示館は工事のため、ご利用の方にはしばらくの間ご不便をおかけします。

- ・年末・年始の休園日は、12月29日(月)～1月3日(土)
レストハウス休業は、12月28日(日)～1月5日(月)
- ・合格祈願「やまこうばし」のお守り
管理事務所にて1人1枚、無料



合格祈願「やまこうばし」のお守り

◎展示会

場所：レストハウス（ボード展示）

- ・第9回ひろしま遊学の森
「四季の移ろい」写真コンテスト作品展
1月 4日(日)～1月 25日(日)
- ・令和7年度 広島県緑化ポスター
原画コンクール入賞作品展
2月 1日(日)～2月 28日(土)



第9回ひろしま遊学の森「四季の移ろい」
写真コンテスト作品展より



令和7年度広島県緑化ポスター
原画コンクール入賞作品展